

令和7年度第1回 仙台市学校給食運営審議会 会議録

1 日時

・令和8年2月2日（月）午後6時00分開会 ～ 午後7時5分閉会

2 場所

・仙台市役所上杉分庁舎12階教育局第1会議室

3 出席者

・委員（13名）

山城秋美 副会長、佐々木慎一 委員、花岡弘二 委員、森川みき 委員、渡辺淳子 委員、
櫻田元太郎 委員、松本宏子 委員、岡崎博子 委員、加藤孝 委員、菅野麻里 委員、
木村ひろみ 委員、鈴木浩志 委員、瀬戸美那子 委員

・事務局職員（6名）

大森武宏 教育局次長兼総務企画部長、岡本直哉 健康教育課長、豊島成憲 給食管理係長、
丸山龍平 給食事業係長、今野聖子 指導主事、植作智美 主査

4 定足数の確認

議事に先立ち、事務局より、本日の出席委員が13名であり、仙台市学校給食運営審議会条例第5条第2項の規定による定足数を満たしているため、本会議は成立している旨、報告がなされた。

5 会長の選出

事務局 委員の改選に伴い、仙台市学校給食運営審議会条例第4条第1項の規定に基づき、会長を選出していただく必要がある。どなたかご推薦をいただきたい。

山城副会長 事務局から案を提示してはどうか。

事務局 会長には仙台市小学校教育研究会学校給食部会長の加藤孝委員にお願いしてはいかがか。

委員一同 （異議なし）

加藤会長 それでは、これより議長を務めさせていただく。まず、仙台市学校給食運営審議会実施要領第6条第1項の規定で、会議録の署名委員は、会長及び会長が指名する委員1名となっていることから、今回の署名委員について、菅野麻里委員を指名する。

6 報告「仙台市学校給食の概要について」「令和7年度の学校給食の現状について」「小学校における学校給食費の完全無償化について」

（事務局より説明：資料1「仙台市学校給食の概要について」）

加藤会長 ただいまの事務局からの説明について、皆様から何かご意見・ご質問等はあるか。

委員一同 （意見・質問なし）

(事務局より説明：資料2「令和7年度の学校給食の現状について」)

- 加藤会長 ただいまの事務局からの説明について、皆様から何かご意見・ご質問等はあるか。
- 鈴木委員 国産小麦を100%使用した学校給食用のパンは給食センターで焼いているのか、製パン業者に委託しているのか。
- 事務局 給食センターではなく、パンの協業組合で製造している。契約自体は仙台市と宮城県学校給食会が締結し、宮城県学校給食会からパンの協業組合に委託し、製造・納品してもらっている。
- 森川委員 給与栄養量(小学校)でマグネシウムが突出している理由は、どのような食材が多いとそうなるのか。
- 事務局 マグネシウムを多く含む食品は海藻類・種実類・小魚類。学校給食で使用頻度の高い大豆、海藻等の影響が考えられる。

(事務局より説明：資料3「小学校における学校給食費の完全無償化について」)

- 加藤会長 ただいまの事務局からの説明について、皆様から何かご意見・ご質問等はあるか。
- 瀬戸委員 保護者として無償化はありがたいが、給食センターの建替時期でもあり、予算は大丈夫か。
- 事務局 ご指摘のとおり給食センターの老朽化は進行している状況であり、本市において最も古い建物は太白学校給食センター。単独調理校は学校改築に合わせて対応しているが、給食センターも近い将来何かしらの対応が必要だと考えている。ただし、改築・改修等の具体的な方針は検討中である。学校給食は事業規模が大きく、食育等も含め学校給食全体として必要な対応を今後も継続していく。
- 補足として、資料1の「2 学校給食費」に示すとおり、小学校における学校給食費290円という額は、学校給食の実施に必要な施設整備費などを除いたものとなっており、保護者の皆様に負担いただいているのは食材費のみということになる。施設整備などに要する費用は、それとはまた別に仙台市として財政措置をする必要があるものである。
- 花岡委員 国等からの交付金が不足しているということだが、具体的に1食あたりどれくらい補助されるのか。
- また、食物アレルギーについて、実際に学校で発症し何らかの対応を迫られた事例は何件あるのか。
- 最後に、栄養補助食品の活用について実施状況を教えていただきたい。

事務局 まず一点目の学校給食費に要する費用について、当初予算案に反映した無償化に関する費用は約 36 億円と試算している。うち国等からの交付金として見込まれる金額は約 26 億円であるため、約 10 億円が不足する見込み。一食当たりとしては、国等から入ってくる金額が約 300 円と試算している。一方で、昨今の物価上昇を踏まえ、必要な栄養量を確保し、バランスの取れた美味しい給食を提供できるよう、市として必要とする金額が約 400 円であることから、100 円程不足する見立てとなっている。

食物アレルギーについては、例えば単独調理校では、日頃から、栄養教諭、栄養士、調理員等が細心の注意を払って対応しているところだが、学校現場においては一部対応に不備があったためにアレルギー対応に不具合が生じているケースがある。具体的にはアレルギーがあるお子さんについては、アレルギー食材を除いて提供すべきところを、除かずに提供した事案がある。そういった事案が今年度現時点で約 5 件生じている。これについては、学校現場向けの職員研修等を通じ、そういった事案が起きないように引き続き注意喚起に努める。

栄養強化食品については、令和 6 年 11 月の調査で、単独調理校の中学校 12 校のうち 9 校がカルシウム強化チョコレートクリーム、鉄・カルシウム強化の肉団子やハンバーグ等を使用している。その他、鉄強化チーズ、豆腐ハンバーグ等を半数程度の学校で使用している。

花岡委員 食物アレルギー事故について、インシデント報告はどのような形でなされているのか。学校職員にどのような形でどのレベルまで上げるという話をしているのか。

事務局 食物アレルギーの報告については、救急搬送に至った場合は県への報告の義務があり、学校から必ず報告を受けている。また、症状の有無にかかわらず、誤食・誤配送があった場合は、健康教育課への報告をお願いしている。また、そういった事故事例について、県のヒヤリハット集により、学校現場での情報共有を図っている。

加藤会長 学校現場としても、食物アレルギーに対する人的ミスは絶対あってはならないことを心がけ、何重のチェックをしながら配食等行っている。そういった中でもまだミスがあるが、なくしていかなければならないと考えている。学校としては、改めてアレルギー対応の研修会を行う等、教職員全体で取り組んでいる状況である。

花岡委員 あってはいけないというのはもちろんのだが、インシデント対応は、当然起こりうるんだという視点から取り組んでいくのが、我々医療業界での考え方。どんなにやってもミスは必ず起こるところから、インシデント対策はやるものだと考える。現場の職員が委縮せずに、危なかったことをすぐ報告でき、現場ですぐに共有できるような環境が望ましいと思う。

佐々木委員 資料1「3 衛生管理」について、今年度、細菌検査等の結果で改善が必要だというような報告があったのかどうか。また、衛生管理研修会はどういった内容の研修をされたのか。

事務局 衛生管理研修会については、給食従事者を集めて保健所から話を聞いたり、日頃のパトロールで気になるところを伝える機会を設けている。今月予定している研修では、拭き取り検査などの結果を報告し、衛生的な対応が必要なところについては、各単独調理校の栄養教諭・学校栄養職員に伝える予定である。

佐々木委員 食器等を使っていると傷が付いてくる。そうすると、その部分に残留デンプン、脂肪等が残ってくることはある。そういった場合は検査の結果をもとに入れ替え等を行っているのか。

事務局 例えば最近では真空冷却器の中の拭き取り検査で結果が高いといった傾向が見られた。そういったところについては、消毒方法等の対応を検討することとなる。

佐々木委員 細菌検査の陽性結果が出ている状況があることを認識した。残留デンプンや残留脂肪等の残留物についても検査し対応しているということでしょうか。

事務局 お見込みのとおり。

鈴木委員 給食に従事される方の人数は、総業務量に対して足りているのか。食物アレルギー対応を要する児童生徒数が上昇傾向にある中、それに対する作業量は増えるものとする。そうした場合にさらに人手が必要かと思うが、昨今さまざまな業界で働く人の確保が困難を極める状況において、学校給食においても苦しい方向に行く予想される。検討中もしくはすでに取り組んでいる対策はあるか。

事務局 例えば単独調理校においては、基本的に調理員を2人配置しており、その他、学校現場の状況や食物アレルギーの対応、児童生徒数によって必要な職員数を配置している。給食のパート職員の申し込み数については、減少傾向にある。今後こういった形で職員を確保していくか、引き続き教育委員会として取り組んでいかなければならないと考えている。

7 その他

(意見・質問等なし)

令和8年 3 月 18日

署名委員 仙台市学校給食運営審議会 会長

加藤 孝

仙台市学校給食運営審議会 委員

菅野 麻里